

3月25日(土)開催 地区協議会と新宿区民会議との意見交換会
「協働・参画・コミュニティ」についての報告

第6分科会 入江雅子

【出席者】 四谷地区協議会から3名、戸塚地区協議会から1名
区民会議第6分科会から2名 計6名

【話し合いの概要】

スタート地点：コミュニティの位置づけ、協働の意味 共通理解が必要

問題点： 町会加入率が低い、町会の存在知らない
町の課題を出し合い解決しようという住民意識低い
平成8年の都市マスタープランでうまくいっていない面（地域センターの位置づけ）が再度地区協議会の設置で繰り返されないか
いろいろな試みがあってもメンバーが金太郎飴的に同じで、行政の一本釣りの弊害あり

役割： 新宿区民会議第6分科会・・・上記テーマの概念整理、方向性検討
地区協議会・・・実際の活動の場、課題解決をとおして協働を実現

協働： 行政と住民の関係としてはアウトソーシング扱いされるが、
自分たちのまちづくりを議論する機会をとらえる
住民同士が課題を出し合う つながりが深まる
だから 地区協議会は協働の基礎作りになっていく

コミュニティ： 町会も大切、しかし都市型コミュニティとしては、マンション自治会、ボランティア活動団体、学生団体、高齢者福祉の団体など入り口はたくさんあってよい。暮らしに応じたつながりがあればよいのでは。
将来の社会を担う子どももコミュニティの一員 いろいろな参加必要

仕組み： 地域の拠点が必要、組織が必要
財源も必要、情報の共有化、透明性もとめられる

区（行政）の立場・・・よき調整役に努める

【まとめ】

これらの話し合いの内容を各活動の場に持ち帰り、さらに今日のテーマへの理解を深める

以上